

# 人生ハンド仏句

第42号

H. 17. 9. 1  
(毎月1日発行)

ほっばだいしん  
発菩提心

住職 谷川寛俊

暑い暑いと過ごしたお盆も過ぎ九月を迎えました。九月の仏教徒の行事はお彼岸です。家庭の中心お仏壇を綺麗にし、浄花を献じ、お供物をお供えして、御法味(ごほうみ)を捧げましょう。さて、江戸時代中期の俳人、与謝蕪村(よさぶそん)の句「今日彼岸菩提の種を蒔(ま)く日哉(ひかな)」は有名です。この句には仏教徒の心構えや意志・決意がこもっていて、誠に優れた作品であると思います。あらためて言うまでもないことですが、仏教徒が目指す終着点、つまり、仏道修行の目的は、「菩提の種」(成仏の種を心の田の中

に植えつけることであり、その事によつて仏果(ぶつか)を得て仏身(ぶつしん)を成就することであり

ます。仏とは「完成された人間」の意味ですから、仏道にいそしむと言うことは、あるべき理想の人間像に近づき築きあげることになりません。成仏(仏に成る)とは、未熟未完成である私達が、誰からも尊敬され仰がれる完成人間・成就人間に到達することであります。そこで「菩提」とは、悟ることでありますが、悟りをきわめて仏に成る為には、まず悟りを目指す心、その意志・決意をしつかりと固めることが必要です。それが菩提の心を発(おこ)すこと。発菩提心(略して発心(ほっしん))です。その必要に気づき目覚めることが悟りの前提であります。だからその気持ちを仏教では「覚悟」

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部  
TEL・FAX (0765)22-2268  
メールアドレス  
kokorochanthk@ybb.ne.jp  
ホームページアドレス  
<http://www.geocities.jp/sinjoyujitoyama108/>

と云うのです。

ところで、人心は、測りがたし、頼みがないのが人の心であります。古歌に「人心移りやすきをそのままに染めてや見せんあじさいの花」と詠じ、日蓮聖人は次の一文を綴つてご教示されております。

夫(それ)雪至つて白ければそむ(染)るにそめられず。漆(うるし)至つて黒ければ白くなる事なし。此れより移りやすきは人の心なり。善悪にそめられ候。法華經にそめられ奉(たてまつ)れば必ず仏になる。いかにも御信心をば雪漆のごとくに御もち有るべく候。

私たちは、菩提を求めて発心し、尊い仏種を心田に下したいものがあります。聖人は「悦ばしきかなや、楽しいかなや、不肖の身とし

て今度心田に仏種をうえたる」と、ご自身の法華經信仰を讃じておられます。誠に素晴らしいことでもあります。

## どこまでも明るい向上心

